



平成23年度FCP成果報告会

第2セッション:FCPの取組状況 (各研究会の活動報告)

平成24年3月2日

農林水産省
食料産業局 企画課 食品企業行動室

目 次（掲載順）

- FCP研究会概要
- 工場監査項目の標準化・共有化研究会
- 商品情報の効率的なやり取りに関する研究会
- 企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会
- 消費者との対話のあり方研究会
- アセスメント研究会

※ FCP普及・戦略研究会は、第1セッションで説明のため 省略しております。

※各研究会資料毎にページ番号が付いています。

平成23年度 FCP研究会活動

活動パターン

【研究会】情報共有の場

①農林水産省の設ける研究・発表の場

消費者との対話のあり方

工場監査項目の標準化・共有化

商品情報の効率的なやり取り

企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用

②事業者の主体的な取組農水省が運営に関与

FCP普及・戦略

FCPアセスメント

地域
ブラ
ンチ

三重ブランチ

愛媛ブランチ

島根ブランチ

岩手ブランチ

和歌山ブランチ

山梨ブランチ

栃木ブランチ

大分ブランチ

滋賀ブランチ

地域の状況に
応じたテーマ
設定

平成23年度研究会①～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

工場監査項目の標準化・共有化研究会

- 食品事業者等におけるアセスメント効率化を図るため、平成22年度に作成した、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」に関して、活用を広めることについて研究。
- 今年度は、用途・目的を選択するとそれに適した監査シートを自動生成するプログラムを作成予定。

商品情報の効率的なやりとり研究会

- 「協働の着眼点」の9.【取引先との情報共有、協働の取組】に基づき、消費者を起点として、フードチェーン全体で情報共有の手法を研究。
- 事業規模に関わらず全てのステークホルダー同士が、商品に関する情報のやり取りを効率的に行うために、相互の認識を共有するとともに、論点を整理し協働での対応を検討する。

平成23年度研究会②～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会

- 今年度は、「FCP展示会・商談会シート」を食品業界にさらに広く普及させることについて研究。
- 普及に向けた研究内容
 - ①商談会シート記載事例の作成 ②マニュアル冊子製作に向けての原案作り
 - ③バイヤーへの普及のためのチラシ作成に向けた意見交換

消費者との対話のあり方研究会

- 食品事業者と消費者間の信頼構築を目的として、研究会活動で作成した「FCPダイアログ・システム(第一版)」「作業シート」を試行し、その結果を踏まえて対話型コミュニケーションのあり方について意見交換を行うとともに、システムの充実について研究。
- 各社の消費者との対話のケーススタディーを通じて、意見交換を深めるとともに、これらの結果を広く開示して、情報共有ネットワーク参加者に、FCPダイアログ・システム(第一版)の活用を促す。

平成23年度研究会③

～事業者等の主体的な運営～

FCP普及・戦略研究会

- FCPの自立的展開を促すための、FCPの普及のあり方、手法の研究と実践。普及活動の主体（①情報共有NW参加事業者による普及、②産学官連携による普及）に応じた研究を推進。
- FCPアドバイザーリーボードメンバー、ファシリテーターの有志が中心となり、アドバイザーを始めとする情報共有NW参加者へ参画を呼びかけ。

※ 東京大学食の安全研究センター中嶋康博副センター長、オラクルひと・しくみ研究所小阪裕司代表、(株)アール・ピー・アイ長澤博英取締役が発起人。(株)アール・ピー・アイが運営事務局。

FCPアセスメント研究会

- 「協働の着眼点」や、それを用いた評価軸等を活用したアセスメント全般(セルフ、二者間、第三者)に関する個々の自主的な活動をご報告いただき情報を共有。
- 個々の活動のスムーズな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関するご提案や課題解決に向けた意見交換。

※ 横浜商科大学地域産業研究所(小林二三夫所長)が主催。



平成23年度FCP成果報告会

平成23年度 FCP研究会
工場監査項目の標準化・共有化研究会

平成24年3月2日

農林水産省
食料産業局 企画課 食品企業行動室

研究会ご登録企業/団体 40企業団体(平成24年2月29日現在)

味の素株式会社

伊藤ハム株式会社

株式会社光陽

全国乳業協同組合連合会

株式会社竹中工務店

株式会社東急ストア

株式会社日清製粉グループ本社

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

日本製粉株式会社

株式会社阪急クオリティーサポート

フードテクノエンジニアリング株式会社

三菱化学メディエンス株式会社

株式会社明治

わらべや日洋株式会社

アヅマックス株式会社

株式会社イトーヨーカ堂

財団法人 東京顕微鏡院

全日空商事株式会社

テーブルマーク株式会社

東洋冷蔵株式会社

株式会社日本アクセス

財団法人日本食品分析センター

日本マクドナルド株式会社

株式会社ファミリーマート

みたけ食品工業株式会社

三菱商事株式会社

株式会社山武

イオン株式会社

花王株式会社

株式会社シジシージャパン

太陽化学株式会社

テュフラインランドジャパン株式会社

株式会社ニチレイフーズ

日本フレッシュフーズ協同組合

日本生活協同組合連合会

ハウス食品株式会社

株式会社フードサービスネットワーク

株式会社三越伊勢丹

三菱食品株式会社

株式会社ローソン

平成23年度研究会の背景・目的

【背景】

フード・コミュニケーション・プロジェクト(以下FCP)の基本的な考え方に基づき、食品事業者間の効率的なアセスメントの実施、アセスメント結果の適正なフィードバックのために、既存の工場監査項目のうち、安全性・信頼性確保のための取組に関するものについて、監査項目の標準化・共有化の検討を行うこととしました。

平成21年度の活動では共有可能な項目として、「FCP共通工場監査項目(第1.0版)」をとりまとめ、平成22年度の活動ではそれぞれの監査項目に対して「実施要求水準」と「監査手法」を設定し、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」としてとりまとめました。これらの成果物は、各社により用途別・目的別に編集していただいた上でご活用いただくことも可能です。

【本年度の目的】

本年度の研究会では、FCP共通工場監査項目を更に広く使っていただくことを目指すため、以下の方向で進めます。(各社が現状使用しているシートを作りかえることを前提とした議論は行いません)

- ①使い勝手向上のための各社による用途別・目的別の編集を促進するため、ひな形として編集例を2~3例作成します。※注
- ②作成にあたっては、まず、どのような用途別・目的別の編集が有効かを明らかにします。

併せて、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただき、意見交換を行うとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案をしていただきます。

※注:第2回研究会での議論により、用途、目的を入力して編集例を作成する自動生成プログラム

(参考)これまでの研究会の経緯

FCP工場監査項目の作成

<工場監査項目を議論する際の視点>

③ 奥行き: 「実施要求水準」
どの水準まで実施することを求めるか?

② 横軸: 「監査手法」「目の細かさ」
個々の監査項目について、どのような手法を使い、どの程度細かく確認するか?

① 縦軸: 「監査項目」
どの項目を監査するのか?

H22年度研究会

H21年度研究会

FCP工場監査項目の普及にむけて

<普及に向けたご意見> ~H22年度試行アンケートより~

- 効率化が可能
- 評価者の目線合せに有効
- セルフチェックに有効

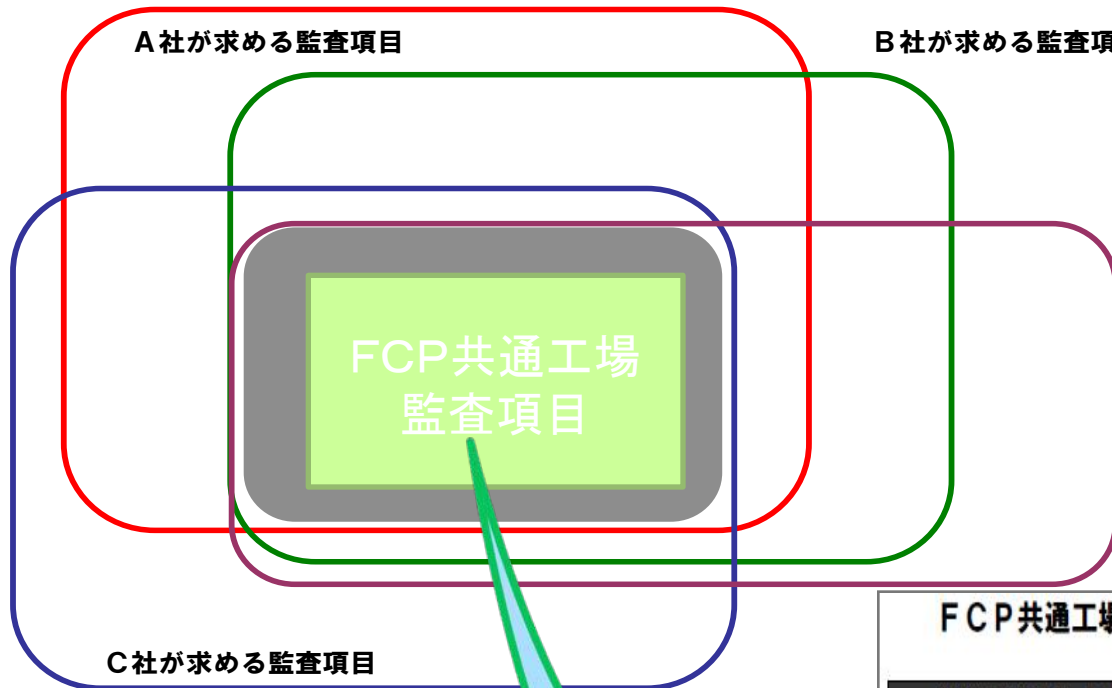
- × 監査項目の重複
- × 項目の順番が不適當
- × 項目数が多い 等

各社による用途別・目的別の編集
で対応可能

FCP工場監査項目(第1.0版)をベースとした各社による用途別・目的別の編集を促進するため、シーンごとにどのような切口が必要か、という観点から用途別・目的別の編集例を作成

H23年度研究会

(参考)平成21年度研究会成果



H21年度は各社が求める監査項目のうち共有化できる116項目をとりまとめ、FCP共通工場監査項目 第1.0版としてとりまとめました。

FCP共通工場監査項目 第1.0版

平成22年 2月22日

FCP事務局

【協働の着眼点・大項目1】『お客様を基点とする企業姿勢の明確化』

(1) 【経営姿勢の社内外への明示】

① 経営者が、お客様を基点とする基本的考え方に基づいて、安全かつ適切な食品を提供する責任を認識しており、その姿勢を社内

1	経営者または工場長などがお客様を基点とする考えを持っており、その姿勢についての社内外への明示			
---	--	--	--	--

【協働の着眼点・大項目2】『【コンプライアンスの徹底】』

(1) 【基本方針の保持】

① 法令遵守に真摯に取り組む方針を示している

2 法令遵守の取組みの社内外への明示

【遵守事項の明確化及び遵守の確認体制の整備】

① 遵守しなければならない法令及び基準を明確にしている

3 遵守義務のある法令及び基準の明確化

② 明確化した遵守しなければならない法令及び基準について随時、適切に更新している

(参考)平成22年度研究会成果

H21年度に共有した項目ごとに実施要求水準と監査手法をとりまとめ、FCP共通工場監査項目（第1.0版）の付属資料として、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」をとりまとめました。

(項目ごとにとりまとめた要求水準と監査手法の一例)

40. 異物検知時の除去、および再発防止対策の確認 (H21年度に監査項目の抽出実施)

実施要求水準

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組のルールがある

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組がルール通り実施されている

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組が必要に応じ記録されている

監査手法

異物検知、排除の方法、排除品の管理ルールを確認

検知・排除結果に基づく対処ルールを確認

異物検知・排除の現場及び記録にてルール通り実施されていることを確認

設定した基準通りの精度で排除できることを確認

製品を全量、機器で検査していることを確認

異物検知時の記録を確認

平成23年度研究会の内容

【本年度の研究内容】

『FCP共通工場監査項目をベースとした用途別・目的別の編集例の作成』

平成22年度にとりまとめた「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」は、各社により用途別・目的別に編集していただいた上でご活用いただくことが可能です。このような活用を促進するため、今年度は用途・目的を選択するとそれに適した監査シートを自動生成するプログラムを作成します。

また、とりまとめた用途別・目的別の編集例を実際の工場監査の場面で試行していただき、使用に際しての感想、要望、改善点などについての検証・議論を行います。

(※なお、希望があれば、作成する用途別・目的別の編集例の精度を高めるために、希望者による実地検証を行う可能性があります。)

【本年度作成する用途別・目的別の編集例の位置づけ】

・H21年度及びH22年度に作成したFCP共通工場監査項目等をベースとします。

(新たな項目の追加、文言の変更等は原則行いません)

・順番の入れ替え、グルーピング、必要な項目の抜粋などによって、実際の工場監査での使い勝手の向上を図ります。

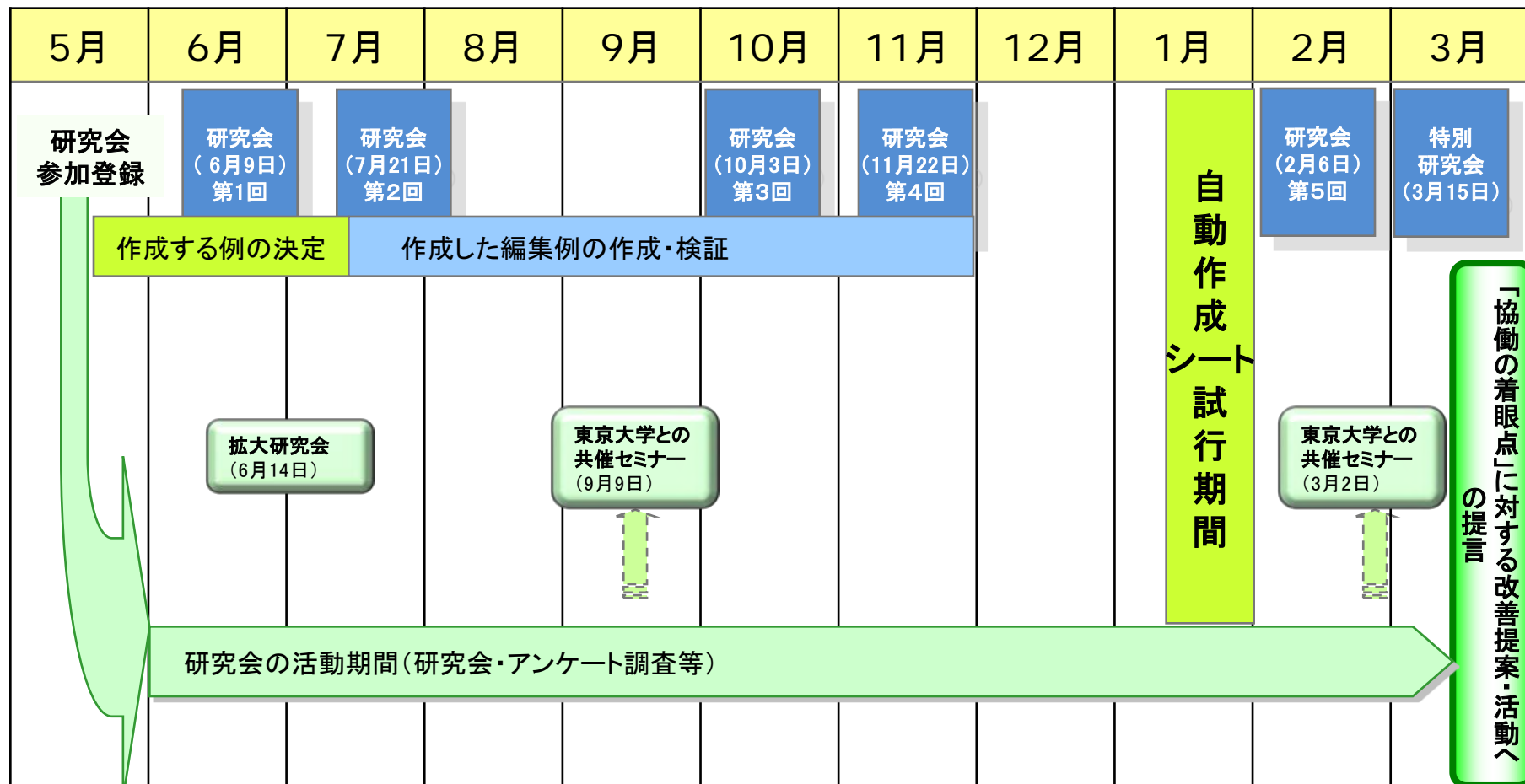
・本年度作成するのは、想定される用途別・目的別の編集の一例であり、これらを参考として、各社ごとに用途別・目的別に編集してご活用いただくことを推奨します。

平成23年度研究会の進捗報告

工場監査項目の標準化・共有化研究会

進捗	第1回研究会 H23.6.9	本研究会の進め方と、普及を進める上でより使い勝手を向上させたツールについて、グループ討議を実施。昨年度まで作成した成果物をより普及させるため、汎用性が高い監査シートを3～4種類作ることで合意。
	第2回研究会 H23.7.21	事務局で検討した結果、3～4種類の監査シートを作るより、汎用性を上げるため監査の用途や目的を選択すれば、それに適した監査項目を抽出するプログラムを作ることがより最適と判断し、研究会に答申して承認。監査項目を製造工程順に並べ替えた後で前中後半部の3回に分け、前半1/3の部分につき監査の用途別・目的別に関連した監査項目を抽出するにあたりグループ討議を実施。
	第3回研究会 H23.10.3	後半1/3の部分につき監査の用途別・目的別に関連した監査項目を抽出するにあたりグループ討議を実施
	第4回研究会 H23.11.22	中盤1/3の部分につき監査の用途別・目的別に関連した監査項目を抽出するにあたりグループ討議を実施
	試行期間 H24.1.11～H24.1.30	第4回研究会までの討議をまとめた、用途別・目的別工場監査シート自動作成プログラム試行版を用いて試行とアンケートを実施。22社から回答。
	第5回研究会 H24.2.6	試行の結果より、使用の手引き案と入力画面の説明文案について討議。
研究会成果	FCP共通工場監査項目(第1.0版)の付属資料として、「用途別・目的別工場監査シート自動作成プログラム」を作成。	

平成23年度 年間スケジュール



平成23年度研究会の進め方

Why

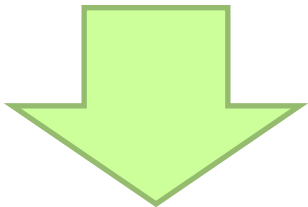
使い勝手の向上

- ・中小企業を中心に、FCP共通工場監査項目をより普及させるために、使い勝手の向上を目指す

What

用途別・目的別に整理

- ・どのような用途別・目的別の編集例(セルフチェック用二者監査用等)を作成すれば、各社で編集する際の参考になるかを議論・検討
- ・用途、目的を入力して監査シートを作成する自動作成プログラムを作成する



個別のエクセルシートに整理

- ・チームに分かれてディスカッションを行い、用途別・目的別の監査シートを作成するために、必要な監査項目を抽出

How

プログラム化

- ・とりまとめた用途別・目的別監査シート自動作成プログラムの作成・検証

平成23年度研究会 議論の過程

平成23年度研究会での議論

自社での活用

どの用途別・目的別の編集例を作成するかを検討

各用途別・目的別の編集例の作成

作成した編集例の検証

- ・ 汎用性がある用途や目的別監査シートを選択
- ・ より汎用性に優れた監査シートを生成するプログラムを作成することを事務局から提案

- ・ 使い勝手のよい監査シートにするための用途、目的の抽出
- ・ 用途のうち、「加工度」に関して、各社の基準や価値観が異なることから不採用に
- ・ 各用途、目的に関連した監査項目、レベルの抽出（研究会3回開催、のべ83事業者、90名参加）

- ・ 試行アンケートの実施
- ・ 模擬監査の実施
- ・ 研究会での討議

現在修正中、3月中にホームページにアップ予定！！

選択画面イメージ図

用途別・目的別 工場監査シート 自動生成ページ

使いたい用途・目的をクリックすると用途別・目的別のシートが自動生成できます。
(javaスクリプトをonにしてご利用下さい。)

- 基本的な衛生管理の確認
- コンプライアンス関連の確認
- 社内教育
- 二者監査



- 新規監査
- 定期監査



- すべての危害のチェック
- リスク別に監査を行う
(以下から監査したいリスクを選択して下さい)

- 生物学的危害のチェック
- 物理的危険のチェック
- 化学的危険のチェック
- 食物アレルギー物質のチェック

目的や用途を選択して「決定」を押して下さい

決定

健康危害をもたらす原因となる食中細菌などが食品中に混入する危険度に関する一連の確認項目が出力されます。

成果物：監査シートの手引き



FCP共通工場監査項目 用途別・目的別シート使用の手引き

「FCP共通工場監査項目 用途別・目的別シート」は、「FCP共通工場監査項目」及び「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」をベースとして作られており、監査・自己点検・従業員教育などの目的や用途に応じて、お使いいただけるチェックシートです。

○語句説明・使用方法

「小項目」

監査項目が関係する「協働の着眼点」の小項目を表しています。
それぞれの監査項目の上位概念になりますので、そもそもの目的をご確認の際にご参照ください。

「監査項目・FCP工場監査項目」

「FCP共通工場監査項目」の監査項目の番号と監査項目(全116項目)を表しています。

「要求水準」

ベーシックな要求水準をレベル1として設定しています。また、より高度な要求水準をレベル2, 3, …として設定しています。
全てのレベルを監査の場で一律に必須項目として求めるような利用を想定していません。

「監査手法」

それぞれの要求水準に対して、それぞれ具体的な確認方法を明確化しています。
該当する全ての手法を確認する必要はありません。

「チェック」

評価した結果をご記入ください。

「備考」

確認した際に得られた情報などを記入するためご活用ください。

○使用上の留意点

その都度要求したい「要求水準」、及び「監査手法」を(自己点検の場合は自分自身で、また二者監査の場合は当事者間で)決めてからご使用してください。
(このチェックシートは、全ての項目を評価しなくてはいけないものではありません)

出力したチェックシートは編集ができないように保護がかかっています。
編集したい場合は、FCP成果物利用規約に基づいてFCP事務局に申請していただければ、編集が可能なシートをご提供いたします。

「FCP共通工場監査項目 用途別・目的別シート」自動作成プログラムは「FCP成果物」です。

「FCP共通工場監査項目 用途別・目的別シート」の著作権は、農林水産省に帰属します。

農林水産省は、利用者が「FCP成果物」を利用して行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。
利用者自身の責任において「FCP成果物」を利用してください。

・シートの概要説明、及び簡単な使用方法の紹介
・初めて使う方にもわかりやすいように！

成果物：出力監査シート

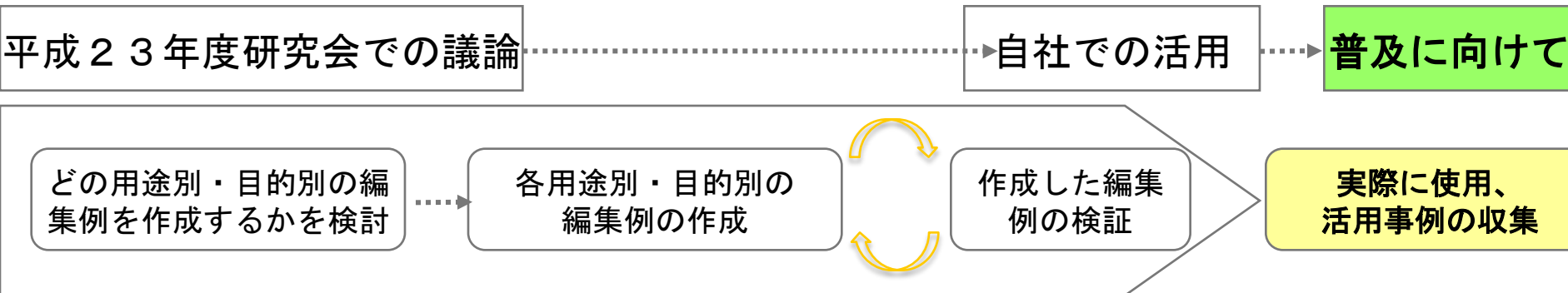
小項目	監査項目	FCP工場監査項目	レベル	要求水準	監査手法	チェック	備考
製造加工場							
0原料受入～保管							
製造工程中の食品の品質及び衛生検査を行っている	45	原材料の品質検査及び必要な場合は衛生検査の実施	2	原材料の品質確認の記録及び結果対応の記録がある	原材料の品質確認及び結果対応記録を確認		検査結果が保管されていること
食品に応じた条件下で保管及び管理している	56	保管のルール(温度禁止、先入れ・先出し、アレルギー物質区分など)の設定	2	保管がルール(温度禁止、先入れ・先出し、アレルギー物質区分など)通り実施されている	保管がルール通り実施されていることを確認		
食品製造用の設備及び器具の食品接触面を清潔に保っている	32	製造機器・器具・備品の食品接触面の清掃・洗浄の作業手順の定期的な実施	1	製造機器・器具・備品の食品接触面の清掃・洗浄が作業手順通り実施されている	製造機器・器具・備品の食品接触面の清掃・洗浄が作業手順通り実施されていることを確認		
			2	清掃・洗浄結果がモニタリングされており、必要に応じて効果を検証されている	清掃・洗浄結果がモニタリングされていることを確認		必要に応じて拭き取り検査が行われていること 必要に応じてATP検査が行われていること
製造加工場							
1調合・仕込み・配合							
食品製造に使用する設備は、衛生的な取り扱いに適したものを選定し、配置している	89	機械の洗浄マニュアルの設定	2	機械の洗浄マニュアルが有効であることが確認されている	洗浄・殺菌の有効性についての検査記録を確認		
製造加工場							
2殺菌・加熱							
微生物及びアレルギー誘起物質の交差汚染を防ぐ対策をとっている	44	交差汚染が起きにくいような、原材料・製品・包材の動線の確認	1	交差汚染が起きにくいような、原材料・製品・包材の動線のルールがある	交差汚染が起きにくいような、原材料・製品・包材の動線のルールを確認		またその動線は、適宜見直しがされていること
製造加工場							
3充填・包装							
食品製造に使用する設備は、衛生的な取り扱いに適したものを選定し、配置している	88	衛生的(消毒作業が容易など)かつ異物混入(塗装など)の原因とならない機器の設置	4	機器の点検記録がある	機器の点検記録があることを確認		
	89	機械の洗浄マニュアルの設定	2	機械の洗浄マニュアルが有効であることが確認されている	作業前・作業後の点検記録を確認 洗浄・殺菌の有効性についての検査記録を確認		
製造加工場							
4保管・出荷							
調達物資の適切な保管及び管理を行うために、適切な施設または設備を備え、管理している	29	保管施設の清掃の実施	2	保管施設の清掃がルール通り実施されている	保管施設現場を確認 清掃道具を確認		
			3	保管施設の清掃記録がある	保管施設の清掃記録を確認		
食品に応じた条件下で保管及び管理している	56	保管のルール(温度禁止、先入れ・先出し、アレルギー物質区分など)の設定	2	保管がルール(温度禁止、先入れ・先出し、アレルギー物質区分など)通り実施されている	保管がルール通り実施されていることを確認		
製造加工場							
5検査・分析							
製造工程中の食品の品質及び衛生検査を行っている	46	最終商品の品質検査及び必要な場合は衛生検査の実施	1	最終商品の品質検査のルールがある。必要な場合は衛生検査のルールがある	最終商品の品質検査ルールを確認及び必要な場合は衛生検査ルールを確認		製品ロットごとに品質検査をしていること
			2	最終商品の品質検査記録がある。必要な場合は衛生検査記録がある	最終商品の品質検査記録を確認。必要な場合は衛生検査記録を確認		検査結果記録があること
	47	品質検査記録及び衛生検査記録の保管	1	品質検査記録及び衛生検査記録が保管されている	品質検査記録及び衛生検査記録が保管されていることを確認		
	57	品質検査及び必要な場合は衛生検査のルールの設定	1	品質検査及び必要な場合は衛生検査のルールがある	品質検査及び必要な場合は衛生検査のルールを確認		検査結果について判定責任者の確認がされていること
			2	品質検査及び必要な場合は衛生検査の記録がある	品質検査及び必要な場合は衛生検査の記録を確認		記録(結果)が保管されていること
	59	品質検査記録、衛生検査記録の保管	2	品質検査記録、衛生検査記録が保管されている	品質検査記録、衛生検査記録が保管されていることを確認		記録内容が検証されていること -合否(規格合格)判定されていること

<工夫した点>

- ・工程別に監査項目を並べた。
- ・レベル別に色分けを行った。
- ・チェック欄は自由に記入できる。
- ・モノクロ印刷でも見やすくした。

試行を14日間実施し、皆さまに評価いただきました。

今後の普及に向けての提案



平成23年度研究会の最終回で、今後のFCP共通工場監査項目の普及のためのアイデアについてグループディスカッションを行い、幅広い提案を取りまとめた。主な意見は以下のとおり。



- ・ 地域ランチで使用するとして利用
- ・ 保健所で使用できないか
- ・ 農政局で使用できないか
- 116項目
- ・ 成功事例のデータベース化
- ・ 協会、団体への普及活動の実施
- ・ FCP工場監査員制度の設立
- ・ メリットを明確にして導入を促す
- ・ 被監査者の自己チェックのツールとして
- ・ 入力画面のサポート→動画作成
- ・ 気づきのきっかけとして利用
- ・ 国内標準としての機能を目指す
- ・ 表彰制度（農水大臣賞など）の創設
- ・ FCP全体のDVD他、広告
- ・ 他の研究会と連動（地方行政合